

71年)9月16日(木曜日)

三 條

新 聞

日 刊

五年間は何とか

道心坂に
投棄開始

機械でくだいたりつぶしたり…

容積を小さくして長持ち

三条市が三百万円余で買収した道心坂、不燃物埋立て地に六日からゴミ投棄が始まった。「五年間は不燃物処理に使いたい」というこの用地、年々産業廃棄物、大型ゴミの量が増加する中で、果して予定通り埋立てを続けられるだろうか。

荻島、代官島と、渡り鳥のように穴場を探し、あるいは池を、埋立て希望用地を求めてきた市環境衛生課。

「これで、五年間は埋立て地の心配をしないで過ごしたい」という期待の道心坂用地は、県立月ヶ岡養護学校から数百㍍のところ。堤防のように高くなつた道路が沢にかかり、この沢を埋立て用に使おうという計画。月岡部落の用地を含め、ざっと二万三千平方㍍の面積、立方㍍単位では、埋立て方法によると、数値はあげてないが、推計では、四十五年度実績の不燃物持込み量から逆算、六万㌧前後を投棄できるとみている。

三条市の不燃物排出量は、四十五年度平均で市が扱った泥、清掃工場からの残灰、収集分、それと業者の持込み合せ一日三十九㌧。年間三百日とみて、一万一千七百㌧、四年半で五万二千六百五十㌧、今後の增加分をみて、六万㌧前後。五年間大丈夫は希望的観測といふわけ。

代官島の埋立て地が飽和状態になつた六日から、不燃物の投棄を始め、希望的観測では、五十一年まで投棄を続けるわけ。

埋立て地を充分活用できるようにと、ビン類をくだけ「クダック」、空き缶を圧縮する「カンベコ」二

種の機械を百十万円で近く購入の予定。ビン類をくだけ、空き缶をつぶして埋立て地を長持ちさせようという考えだ。現在の道路の高さまで埋立てながら、ブルドーザーで土を盛り、何段かで不燃物ゴミを処理、最終的には一帯の銀光開発をかなた駐車場にしたいとう。



もえないごみの埋立てを
始めた月岡地内



発行所
三条市新保1198番地
三條新聞社

事務所三条市昭栄通り
電話②5281代
工場②3336夜休③023